

## 学修成果／教育成果の可視化の実際と課題 —共愛学園前橋国際大学の取組を事例に—

- はじめに：学修成果／教育成果の可視化とは～教学マネジメント指針より～
- エビデンスベースの自己評価による学修成果の可視化と自律的学修者の養成
- 学修成果の可視化の信頼性向上と教育成果の可視化に向けての模索
- 教学マネジメントの体制
- 学修成果のキャリアとの接続の模索（産学連携）
- これから解決しなければいけないたくさんの課題

（参考）大学紹介等



共愛学園前橋国際大学

共愛学園前橋国際大学短期大学部

KYOAI GAKUEN UNIVERSITY / JUNIOR COLLEGE

学長 大森昭生



はじめに

# 学修成果／教育成果の可視化とは ～教学マネジメント指針より～

# 教学マネジメントの本丸＝学修成果の把握・可視化とは

学修成果・教育成果の把握・可視化は、学修者本位の教育を実現する観点から、**一人一人の学生が自らの学びの成果（学修成果）として身に付けた資質・能力を自覚できる**ようにすることが重要である。このため、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を可視化された**エビデンスとともに自ら説明できる**ように複数の情報を組み合わせた多角的な形で行われることが必要である。また、**大学が、**学位プログラムを通じて**同方針に定める資質・能力を備えた学生を育成できていること（教育成果）も、**学修成果と同様に**説明できる**ことが必要である。教学マネジメント指針（22ページ）

学修成果の可視化の主体＝学生

教育成果の可視化の主体＝大学



# **エビデンスベースの自己評価による 学修成果の可視化と自律的学修者の養成**

# —KYOAI CAREER GATE (eポートフォリオ)—

4年間の主体的な学修とその成果を目に見える形で積み上げ、キャリアにつなげる。

4年間に会うたくさんの学びと活動。その一つ一つを、eポートフォリオである

## KYOAI CAREER GATE

に蓄積し、自分の学修を振り返りながら、それをエビデンスとして、学修成果指標に基づく成果の自己評価と可視化をします。

さらに、その活動や成果を

## SHOWCASE

を通して社会へと発信し、目ざすキャリアへと接続します。



## KYOAI CAREER GATE (KCG)

入学から卒業まで全ての学びと活動をeポートフォリオに蓄積

## 4年間の学修で身に付ける4つの軸と12の力 (学修成果指標)

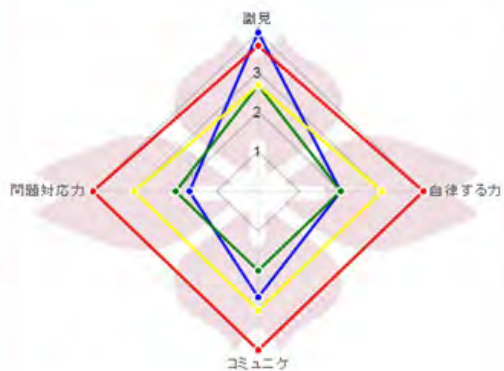
識見	■ 共生のための知識	■ 共生のための態度	■ グローバル・マインド
自律する力	■ 自己を理解する力	■ 自己を制御する力	■ 主体性
コミュニケーション	■ 伝え合う力	■ 協働する力	■ 関係を構築する力
問題に対応する力	■ 分析し、嗜好する力	■ 構想し、実行する力	■ 実践的スキル

## SHOWCASE (KCG+S)

KCGに蓄積した成長の記録を公開履歴書としてキャリアに接続

≡ CAREER ≡

## 共愛12の力 レーダチャート



— 1年生  
— 2年生  
— 3年生  
— 4年生

# 建学の精神とDP、そして「共愛12の力」(学修成果指標)

建学の理念：共愛＝共生の精神

教育の目的：国際的な視野を持ち、地域の諸課題を解決できる人材育成

ディプロマポリシー (DP) :

1. 地域社会の諸課題への対応能力
2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見
3. 問題を発見し解決するための分析能力・実技的技能
4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力



各コースが育む  
知識・スキル

## 共愛12の力

識見	共生のための知識
	共生のための態度
	グローバル・マインド
自律する力	自己を理解する力
	自己を制御する力
	主体性
問題に対応する力	分析し、思考する力
	構想し、実行する力
	実践的スキル
コミュニケーション力	伝え合う力
	協働する力
	関係を構築する力

理念・目的・DP・地域産業界ニーズから導かれる達成指標

- シラバスに「共愛12の力」との対応を明記  
→ KCG (eポートフォリオ) に履修履歴と共に蓄積

到達目標	高校からの環境移行に伴う変化にうまく適応し、新たな関係づくりができることや資料調査を行う際に必要な基本技術を身につけることを目標とします。	
「共愛12の力」との対応	識見	自律
	共生のための知識	自己を理解する力
	共生のための態度	自己を制御する力
	グローバル・マインド	主体性
教授法	アクティブラーニング	サービスラーニング

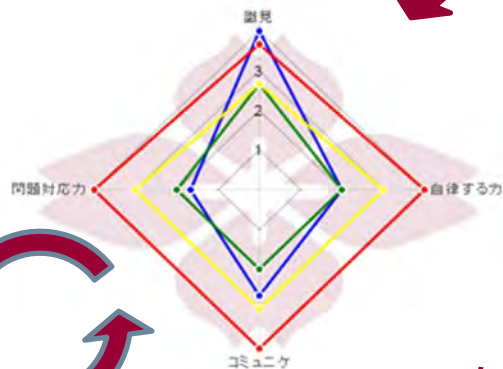


# 共愛学園前橋国際大学がめざす

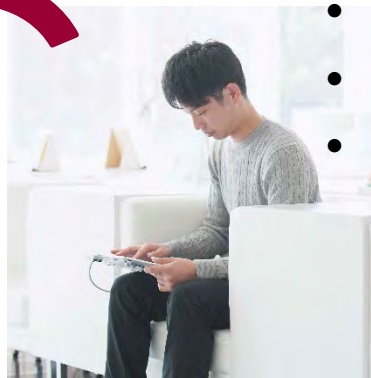
## エビデンスベースの自己評価による学修成果の可視化と自律的学修者の養成



**リフレクション**  
リフレクションアワー  
+  
担当教員との個別面談



**自己評価**



- 学修活動の振り返り
- 学修計画の調整・改善
- 学修成果の総括

**ショーケース**  
キャリアプランニングで  
の作成指導

**評価規準**  
(コモンルーブリック)

学生の自主的な取り組みに加え、  
授業課題やゼミ選択条件とするなどの  
動機づけも

**エビデンスの蓄積**

(ポートフォリオ: KCG)

共愛12の力にリンク

授業での学修

学内活動

学外活動

科目	振り返り
〇〇演習	...
△△学	...
□□概論	...

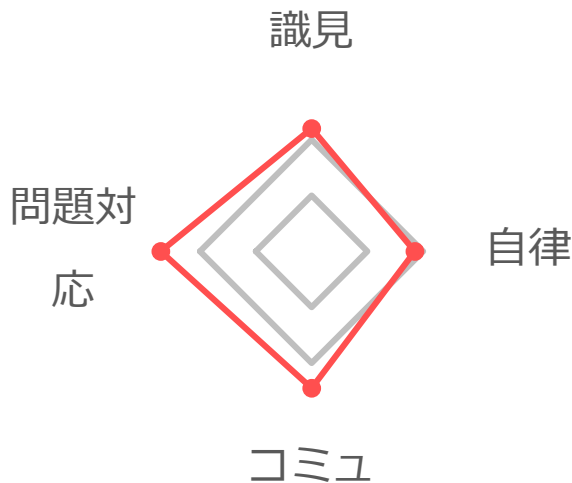


(参照)  
外部テスト



# (例) 学生が「主体性」の成長について振り返る

「主体性」を横断検索



コモンルーブリックを  
規準として自己評価

活動	概要・コメント・成果物など
授業A	..... .....
授業D	..... 
...	
▼▼ (留学)	..... 
□□ (サークル)	.....
○○ (読書履歴)	.....

「主体性」にタグ付けされた記録を一括表示



# 共愛学園前橋国際大学コモンループリック

4の軸	12の力	12の力の定義	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
識見	共生のための知識	多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識	共生のための社会の諸課題に対応するための、新たな知見を生み出すことができる。	共生のための社会の諸課題について、知識を組み合わせ、自分の言葉で説明することができる。	所属するコースの専門的な知識を習得している。	文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する体系的な知識の習得に努めている。
	共生のための態度	多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動	多様な存在が共生可能な社会のために、考え、学び、行動し続けることができる。	多様な存在が共生する社会の中で自分ができること、やらなければならないことについて考えることができる。	授業や活動を通じて、社会が多様な存在で構成されていることを理解し、多様性を尊重する気持ちを持っている。	自分の態度や信念は他の文化やコミュニティの態度や信念とは異なっているという自覚をもっている。
	グローバルマインド	地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢	地域社会と世界をつなぎ、自らが暮らし、地域社会の発展に貢献するグローバル人材として活躍していくビジョンを持っている。	地域社会と国際社会の関わりについて、様々な学びを通じて、主体的に考えることができる。	母国以外の政治・経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。	自らの暮らし、学びの場である地域の経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。
自律する力	自己を理解する力	自己の特徴、強みや弱み、成長を正確に理解する力	様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に表現でき、将来に向けての自分をイメージすることができる。	様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。	自らの興味関心や特徴、長所や短所について考えながら、授業や活動に取り組むことができる。	授業や学内外の活動を通じて、自分の興味関心のありかを確認したり、新たな興味の対象を見つけようしたりしている。
	自己を制御する力	ストレスや感情の揺れ動きに対処しながら、学びや課題に持続して取り組む力	ストレスや感情の揺れ動きと上手に付き合いつつ、大きな困難に挑戦し、価値あることをやり遂げた経験と自信がある。	ストレスや感情の揺れ動きと上手に付き合いつつ、困難な課題に取り組み続けることができる。	達成が容易でない課題でも、最後まで粘り強く取り組むことができる。	設定した目標に向かって、取り組むことができる。
	主体性	人からの指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力	人からの指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけ、行動することができる。	自らすべきことを見つけ、行動し、その結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。	指示を待つのではなく、自分の状況を判断した上で、自らすべきことを見つけ、行動している。	指示を待つのではなく、何をすればよいか、するべきかを見つけようとしている。
コミュニケーション力	伝え合う力	コミュニケーションにおいて相手の意図を正しく理解し、自分の意図を効果的に伝達する力	レベル1～3を複数の言語で行うことができる。	適切なコミュニケーション・ツールを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。	コミュニケーションの状況や相手の立場を考慮して、伝達方法を工夫することができる。	発言や文章の論点を正しく理解することができる。
	協働する力	他のメンバーと協調しながら集団として目標に向けて行動する力	良いグループになるための条件を常に模索し、他のメンバーへの働きかけを通じて、グループの目標達成に貢献することができる。	多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。	グループでの自分の役割、責任を理解し、自分なりにグループに貢献することができる。	他者の発言をよく聞き、会話の流れをしっかりと追いつきながら、グループに協力することができる。
	関係を構築する力	様々な他者と円滑な関係を築く力	自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。	互いの状況や立場についての理解を深め合うことにより、相手と円滑な関係を築いていくことができる。	相手の状況や立場を理解し、共感を示しながらコミュニケーションすることができる。	自分の気持ちを一方的に伝えるだけでなく、マナーを守り、相手を尊重してコミュニケーションすることができる。
問題に対応する力	分析し、思考する力	様々な情報を収集、分析し、論理的に思考して課題を発見する力	必要な情報を効率的に集め、多面的視点から分析を行い、現実の、または学術上の問題について新たな課題を発見することができる。	情報・資料の分析を通じて、物事を多面的に見ることにより、問題の新たな側面を発見することができる。	自ら情報・資料を収集し、それらを論理的に分析し、考察することができる。	与えられた情報・資料を客観的に読み取ることができる。
	構想し、実行する力	課題に対応するための計画を立て、実行する力	現実の、または学術上の問題を解決するために、収集した情報や知識を活用しながら計画を立て、完遂することができる。	計画の進捗状況を確認し、必要に応じて計画を修正しながら、着実に実行していくことができる。	立てた計画を着実に実行することができる。	取り組むべき物事に対して合理的な計画を立てることができる。
	実践的スキル	現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル	問題解決に役立つ様々なスキルを組み合わせ、状況に応じて柔軟に活用することができる。	自らの強みとなるスキルを身につけ、問題に対応することができる。	学びに必要な基本的な事柄を自らのスキルとして活用できる。	学びに必要な基本的な事柄（コンピュータの使い方やレポートの書き方など）を理解している。

# Kyoai Career Gate の実際

<p>自己を理解する力 (2年次)</p>	<p>レベル3:様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。</p>
<p>自己を制御する力 (2年次)</p>	<p>レベル3:ストレスや感情の揺れ動きと上手く付き合いながら、困難な課題に取り組み続けることができる。</p>
<p>主体性 (2年次)</p>	<p>レベル3:自らすべきことを見つけ、行動し、その結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。</p>
<p>エビデンスにした活動や授業 (2年次)</p>	<p>ミッショングローバル研修は、異国の地で毎日1つの課題を限られた時間で解決していきました。私は海外に行くのも初めてでそんな中課題を与えられ、辛くストレスに感じることもありましたが、友達と励ましあったりすることで研修に前向きに取り組むことができました。また、チームで活動することが多かったので限られた時間の中で自分は何をすることでチームのためになるのかを常に考え行動することができました。</p>
<p>伝え合う力 (3年次)</p>	<p>レベル3:適切なコミュニケーション手段・スキルを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。</p>
<p>協働する力 (3年次)</p>	<p>レベル3:多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。</p>
<p>関係を構築する力 (3年次)</p>	<p>レベル4:自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。</p>
<p>エビデンスにした活動や授業 (3年次)</p>	<p>インバウンド人材育成PRGでは、学年、コースの異なる学生とチームを組み、活動を行っていたため、活動中は様々な意見やアイデアが出され、新しい考え方というものを学んだ。また、前橋市でインバウンド事業に取り組んでいる市の職員や、フラワーパークの社長など、多くの方々と一緒に活動していく中で、社会人とのコミュニケーションの取り方や、距離感、話し方など、多くのマナーが身に着いた。</p>

# KCG+Sの実際 (ショーケース)

**KCG+S KYOAI CAREER GATE SHOWCASE** 共愛学園前橋国際大学

2012

24 **バーチャルカンパニートレジャー2012 京都府知事賞受賞** 学年活動 2012/11/14(ハイライト)

2012年度の前期・後期を通して活動してきた電子商取引実習の一環として参加した大会で最優秀賞 京都府知事賞を受賞した。

この大会は、日本全国の小学生から大学生までが協賛企業を立ち上げて参加するものである。それぞれの企業（チーム）が各地の特色を生かした商品やサービスを作り上げ、その成果を発表する。私たちの企業は私を含めた1年生2名、2年生2名計4名で参加し、数種類の特産品であるフコイモイモを使用したつけ麺を出展した。

京都大学を会場として行われるこの大会では、実際に対面販売を行い、生のお客様の声と関わり（自分たちの活動がどのように受けとられ、必要があれば「厚意をもって体験することができた。

私はこの大会で最優秀賞を受賞することができた。情しこの方が多く知っている。それは、商品を売ることができたという点である。

この一年の活動で、もっと私が積極的に周りの声を聞き込み話し合いや意思決定のスピードも速くなることであれば、中国よりも売れる商品にできていたかもしれないという後悔が残っている。

そのため、卒業後電子商取引実習を継続することにより、さらに商品開発や販売することについて学びたいと考えている。

KCG+S (Kyoai Career Gate + Showcase) は、共愛学園前橋国際大学が運営する公開履歴システム (ショーケース) です。学成績簿・卒業記録システムであるKCG (e-ポートフォリオ) に連携された大学生生活記録にわたる学びとその学修成果から、学生自身が誇りに感じ、表現したものです。学生の学びや経験のエビデンス (証拠) としてご活用ください。

共愛学園前橋国際大学 (Kyoai Gakuen Maebashi International University) は、2010年10月に開校した。この大学は、地域社会と連携し、学生が主体的に学び、成長できる環境を提供している。KCG+S (Kyoai Career Gate + Showcase) は、学生の学びや経験を記録し、表現するためのシステムである。このシステムを通じて、学生は自分の学びや経験を公にでき、就職活動や進学活動に活用することができる。また、このシステムを通じて、学生は自分の学びや経験を他の学生と共有でき、互いに励ましあうことができる。KCG+Sは、学生の学びや経験を記録し、表現するためのシステムである。このシステムを通じて、学生は自分の学びや経験を公にでき、就職活動や進学活動に活用することができる。また、このシステムを通じて、学生は自分の学びや経験を他の学生と共有でき、互いに励ましあうことができる。



# 学修成果の可視化の信頼性向上と 教育成果の可視化に向けての模索

# 学修成果の可視化の信頼性向上へ向けての模索

## 学修成果の可視化ステップ 1 (2015 - 2018)

- **PLAN**
  - 学修成果指標「共愛12の力」の策定・浸透
- **DO**
  - エビデンスベースド自己評価システムKyoai Career Gate (KCG) の運用開始
  - シラバスに「共愛12の力」の対応を追加
  - 全学生がリフレクションを実施
  - 「共愛12の力」策定・AL推進・KCGのためのFD
- **CHECK**
  - 共愛12の力に対応し、AL授業数の増加
  - 授業外学修時間の増加
- **ACTION**
  - リフレクションの効果向上のためのKCG利用率の向上
  - 教育プログラムと「共愛12の力」の関係の検証

## 学修成果の可視化ステップ 2 (2019 - 2022)

- **PLAN**
  - 学修成果の可視化の実質化
- **DO**
  - KCG+S (ショーケース) を学びの履歴書と位置づけ、キャリアプランニングⅠ・Ⅲ (必修) で作成 (KCG投稿記事の主要記事を公開)
  - KCGの利用向上のためのシステム改善
  - **学修成果「共愛12の力」の多角的可視化に向けた構造化**
- **CHECK**
  - 卒業生調査による学修経験・身についた力
  - 卒業までの4年間の「共愛12の力」の変化
  - **リフレクション (ショーケース) ・リフレクション面談の効果検証**
  - **卒業時の「共愛12の力」の把握・検証**
- **ACTION**
  - **学修成果の可視化に基づくカリキュラム改善**
  - 教学マネジメントのための組織設置・改善の推進

## 学修成果の可視化ステップ 3 (2023 - 2024)

- **PLAN**
  - 学修成果の可視化の信頼性の向上
- **DO**
  - 2023年度入学生から順次新カリキュラムの開始
  - カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの運用
  - 学修成果達成度評価指標科目による教育成果の検証
  - 達成度評価科目 (必修) ・課題演習・卒業研究で「共愛12の力」の確認 (レベル2以上)

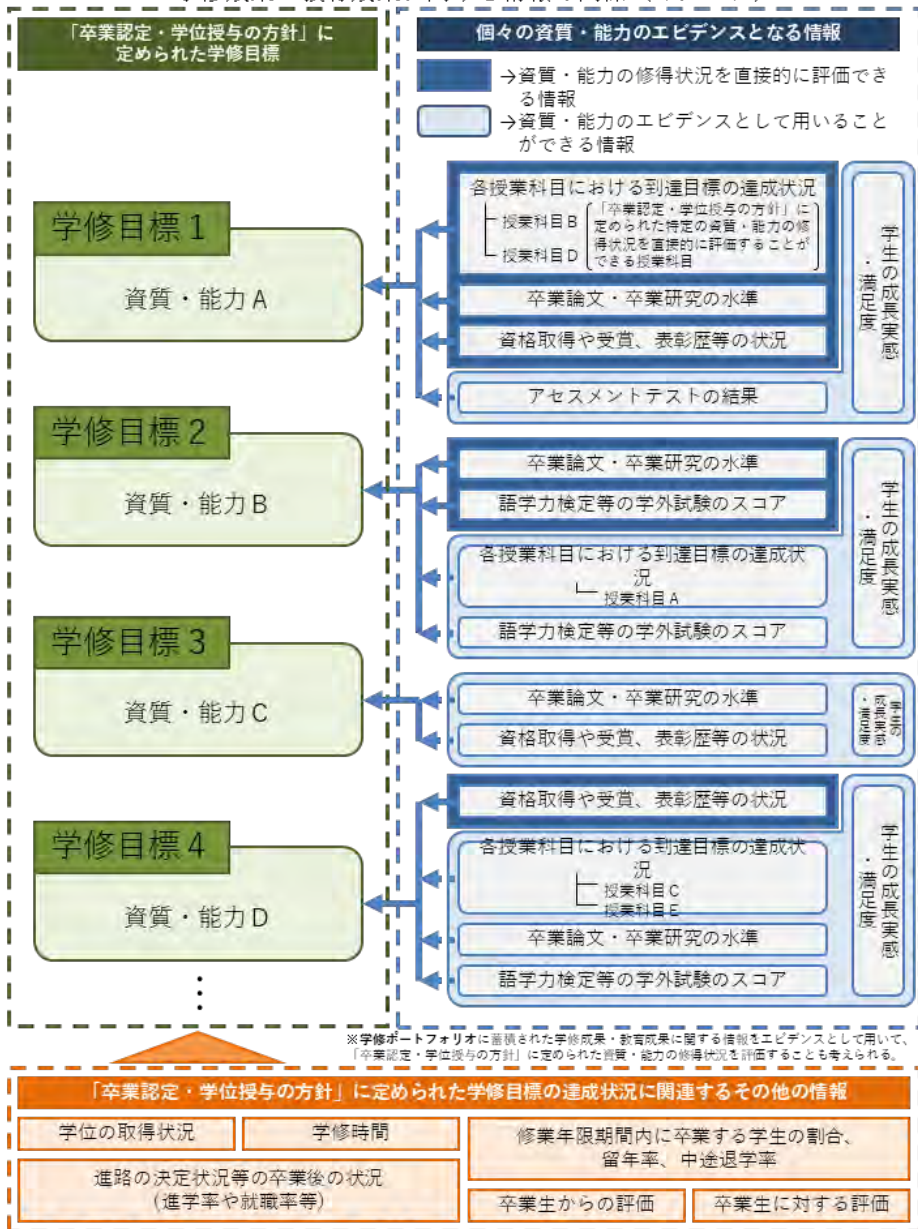
青字 = 現在取組中    赤字 : 重要なACTION





「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と学修成果・教育成果に関する情報の関係（イメージ）

教学マネジメント指針 40頁 別紙1



### 教学マネジメント指針 27頁

○学修成果・教育成果の把握・可視化の基礎となる「卒業認定・学位授与の方針」が個々の大学における強みや特色等を踏まえて設定されるべきものであることも踏まえると、従来から多くみられるように、単に授業科目ごとの成績評価を示すだけでは学修成果・教育成果の把握・可視化としては不十分である。そのため、各大学が自ら様々な情報を組み合わせて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにすることが強く期待される。その際、エビデンスとして使用可能な情報は多岐にわたるが、こうした様々な情報について、同方針の各項目にひも付けて整理し（例えば別紙1参照）分かりやすい形でまとめなおし、同方針に定められた資質・能力を身に付けていることを示すことが考えられる。

DPの資質能力に合わせてどのような方法でその目標達成を可視化するかを各大学で検討



# 共愛学園前橋国際大学が検討している 教育成果の把握・可視化のための複合的なエビデンス

## 大学全体 (institutional level)

- DP/CP/APの有効性：「共愛12の力」1年次から卒業時の伸長、KCG+S作成率、入試別検証
- 教育の有効性・社会への適応：卒業生調査、就職先アンケート、在校生・卒業時調査、就職率・進学率、卒業率
- 学修成果（12の力・DP達成度）：リフレクション記入率、リフレクション面談実施率

## 学位プログラム (program level)

- 教育方法の適切性：AL/PBL導入と授業外学修時間・授業方法別12の力の伸長、オンデマンド授業の検証
- 教育課程編成の適切性：退学率、GPA、単位の実質化（授業外学修時間）
- 国際理解・留学経験支援：留学・COIL経験者数、留学率
- 地域理解・社会連携・社会貢献：地域・企業連携（寄付講座）、高大接続
- 学習支援：奨学金の有効性、進路指導、留学生支援、DE&Iの設置、ピアサポート利用率(ラピタデスク、ITサポート、英語)、退学率

## 授業科目 (class level)

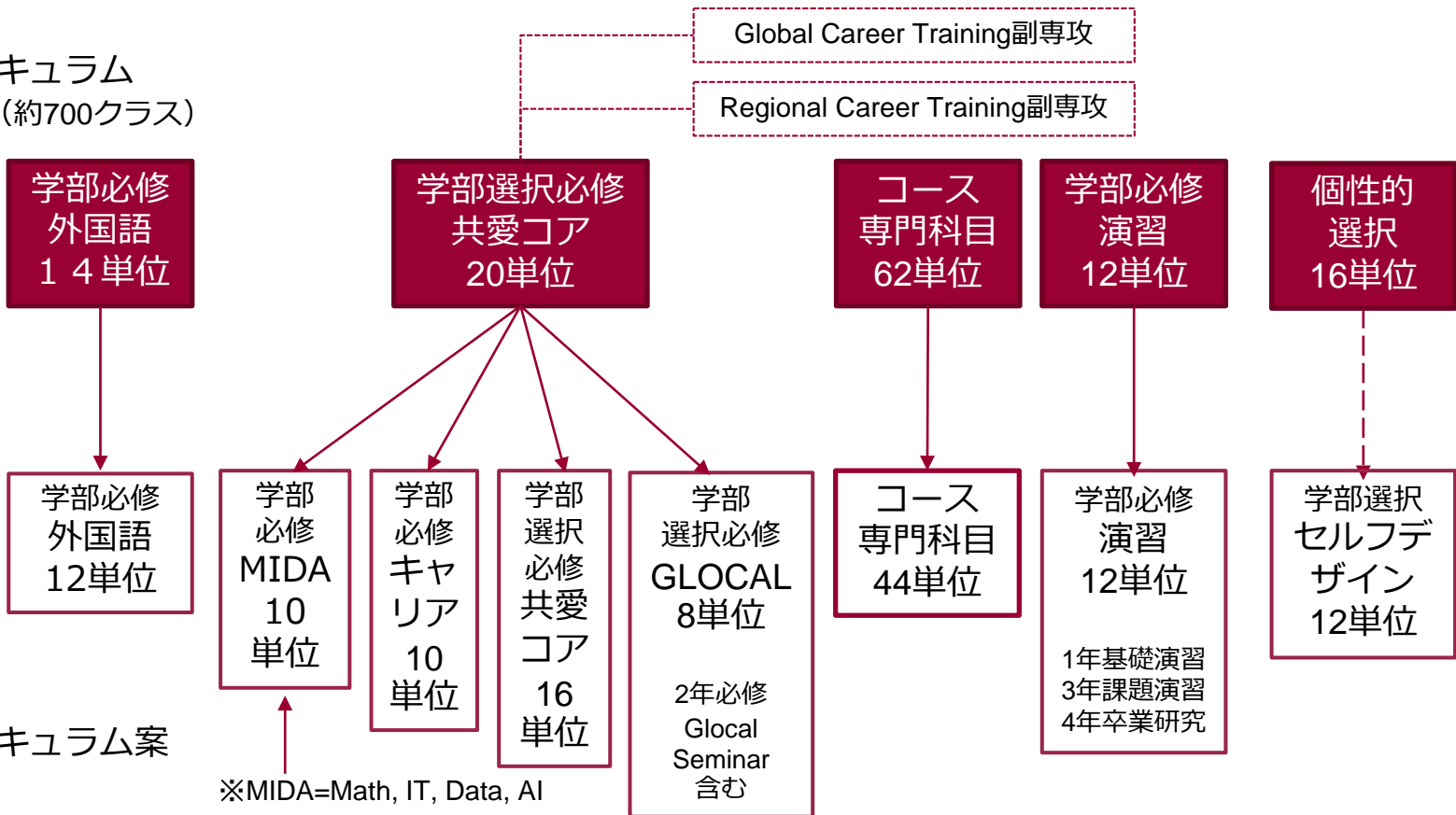
- 授業の適切性：クラス規模、シラバスと授業内容の整合性、授業アンケート、授業外学修時間
- LMSによる授業支援：LMS利用率（LMSの効果検証）

# 共愛学園前橋国際大学 DP達成のためのカリキュラム改革

現在のカリキュラム  
約480科目 (約700クラス)

新しいカリキュラム案  
約300科目

あくまでも  
想定の結果  
です！





# (参考)2023年度スタート短期大学部のカリキュラム改革

## S-D Challenge (Self-Design Challenge)

教室での授業ではなく、様々な体験的な学びを自分でデザインし、その学びを通して、自分の在り方を考え、キャリア=人生をデザインする力を身につける取組。

例えば…

海外型  
Challenge

企画型  
Challenge

解決型  
Challenge

貢献型  
Challenge

取材型  
Challenge

インターン型  
Challenge

資格獲得型  
Challenge

学修深化型  
Challenge

編入準備  
Challenge

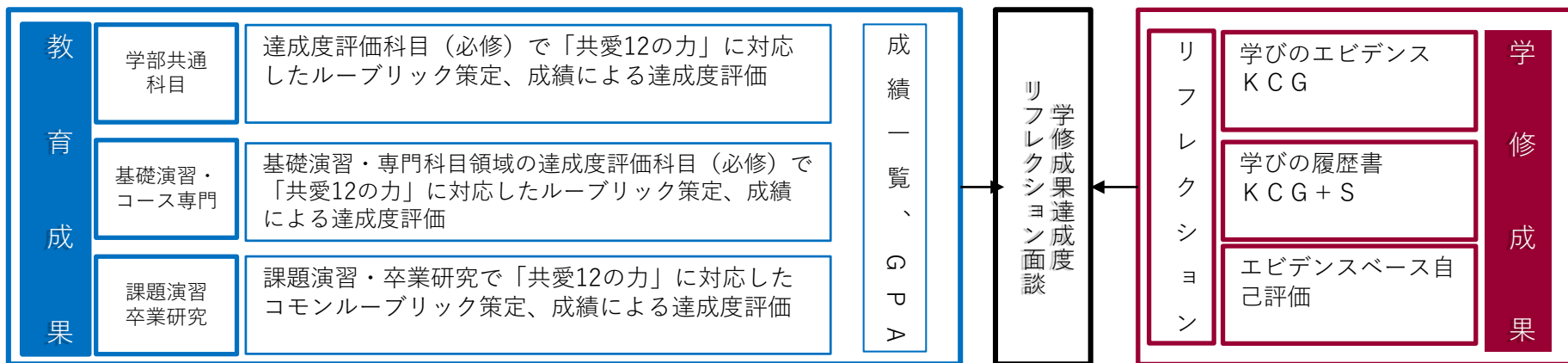
## Quarter System (4学期制)

入学	1年次						2年次						卒業
	4-5月	6-7月	8-9月	10-11月	12-1月	2-3月	4-5月	6-7月	8-9月	10-11月	12-1月	2-3月	
	I 1st term	II 2nd term	夏休み	III 3rd term	S-D Challenge term	春休み	IV the 4th term	V the 5th term	夏休み	VI the 6th term	VII the 7th term	春休み	

※共愛学園前橋国際大学短期大学部は、生活学科・子ども学専攻／栄養専攻を有する資格取得型の短大であるが、密なカリキュラムの中で効果的な学修と共愛短大10の力（資質能力）を身につけるために4学期制に移行する。



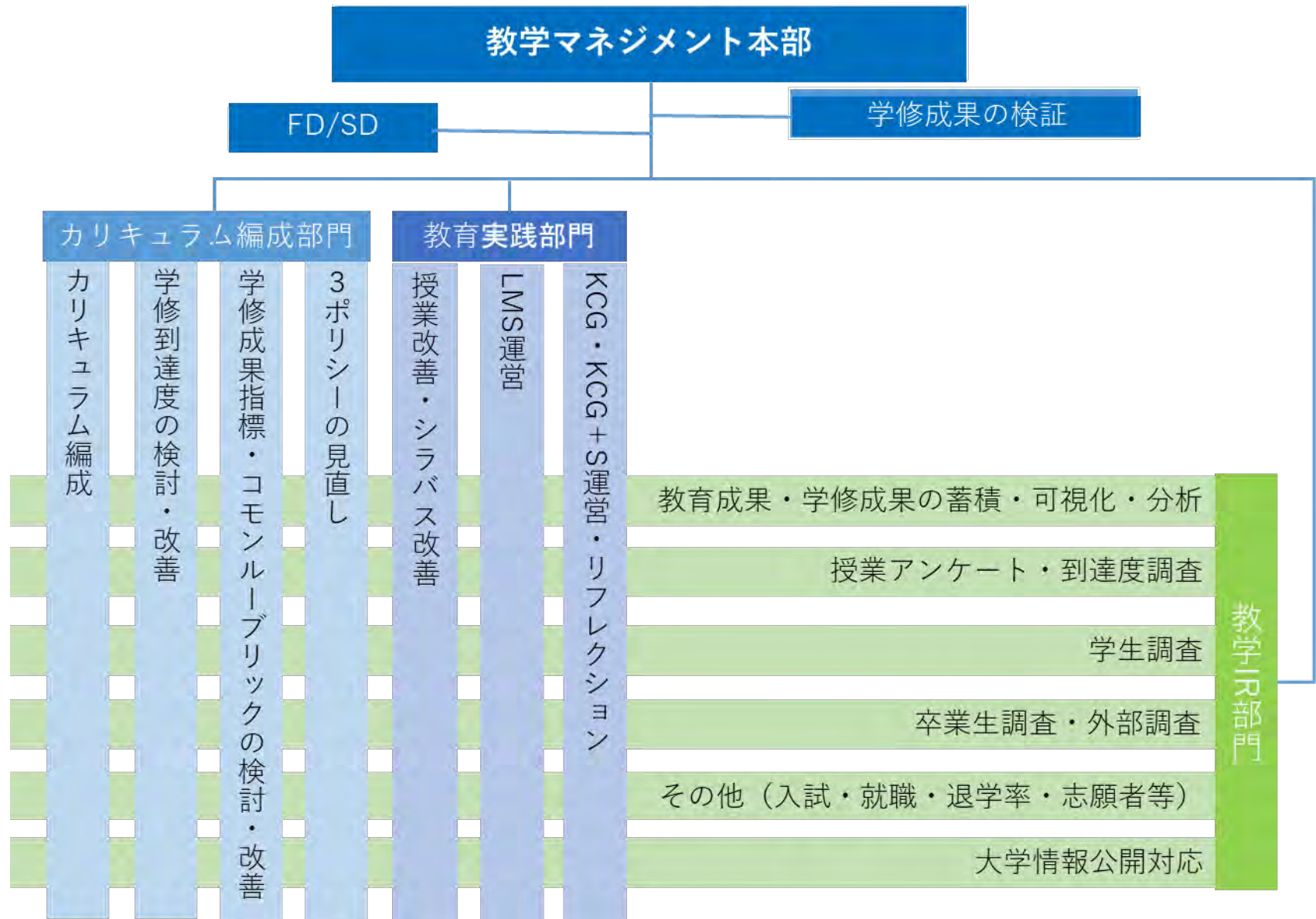
# 2023年度から始まる新カリキュラムにおける 学修成果の可視化と教育成果の把握に係る検討を開始





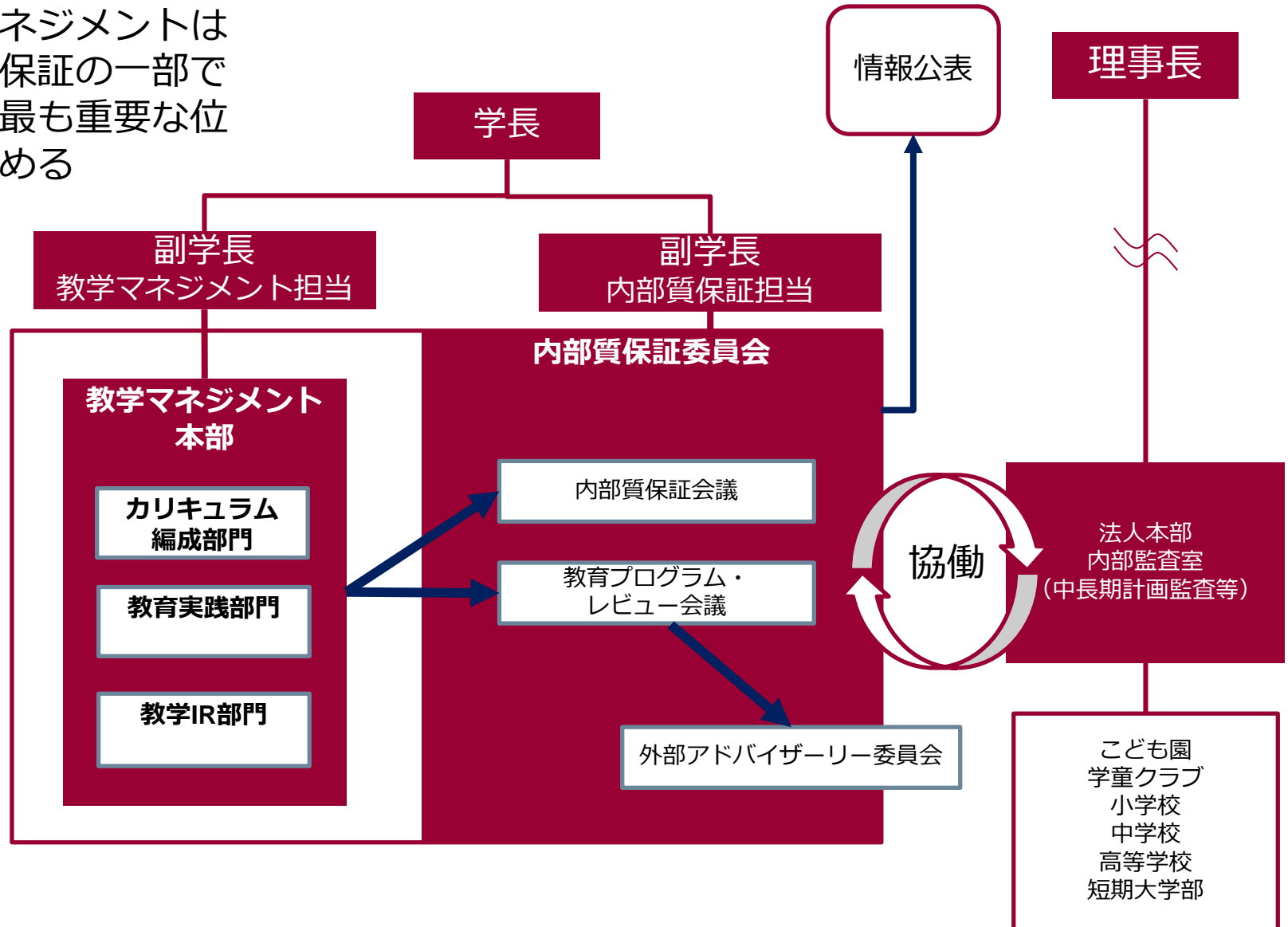
# 教学マネジメントの体制

# 教学マネジメント本部組織と機能



## (参考)内部質保証の体制

教学マネジメントは  
内部質保証の一部で  
あるが最も重要な位  
置を占める





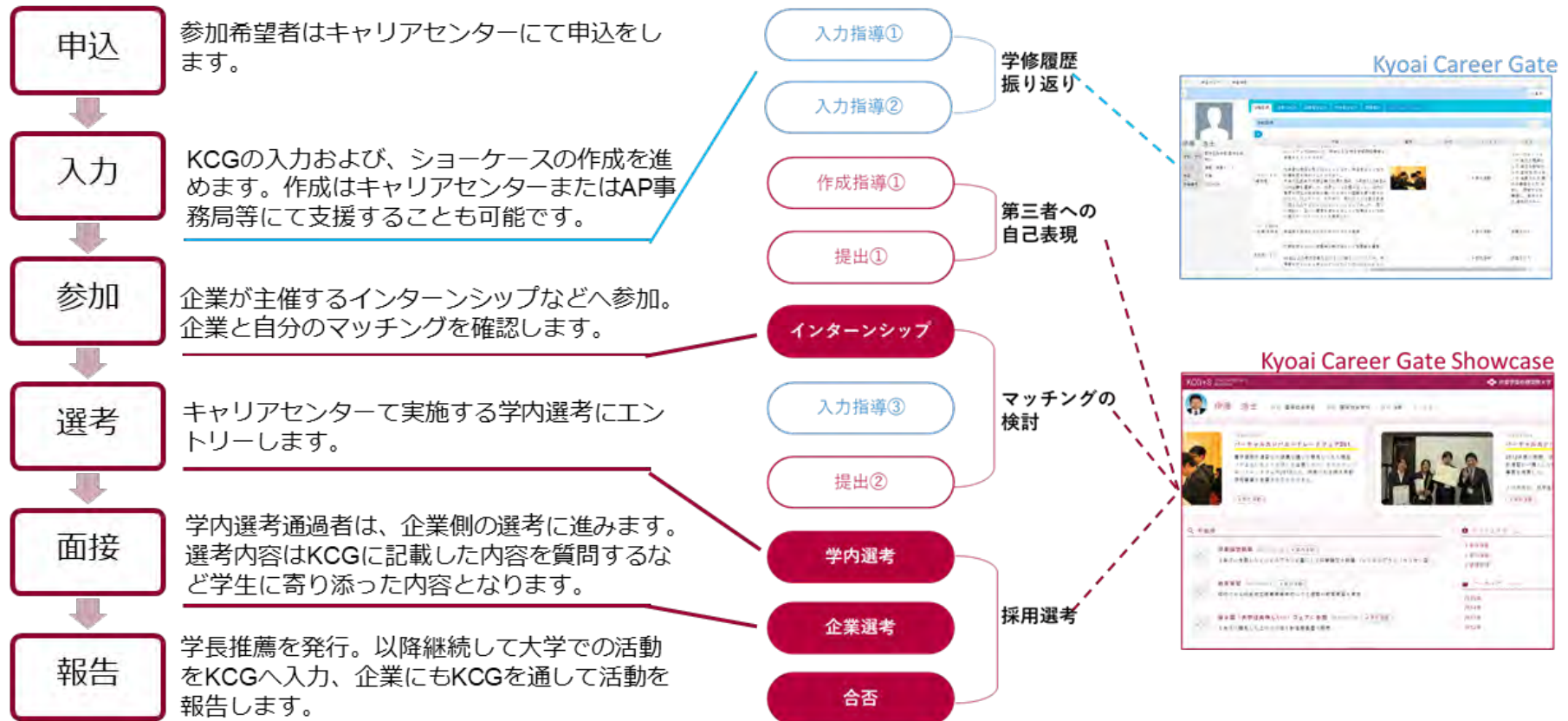
理想は、出口の質保証から、接続・育成へ

## **学修成果のキャリアとの接続の模索(産学連携)**

# 学修成果の可視化とキャリアへの接続

## KYOAI Career Gate 採用

学修成果の蓄積と可視化の取組をマッチングに活かし、採用と採用後の人事配置や育成へと接続する仕組みを地元企業と模索。

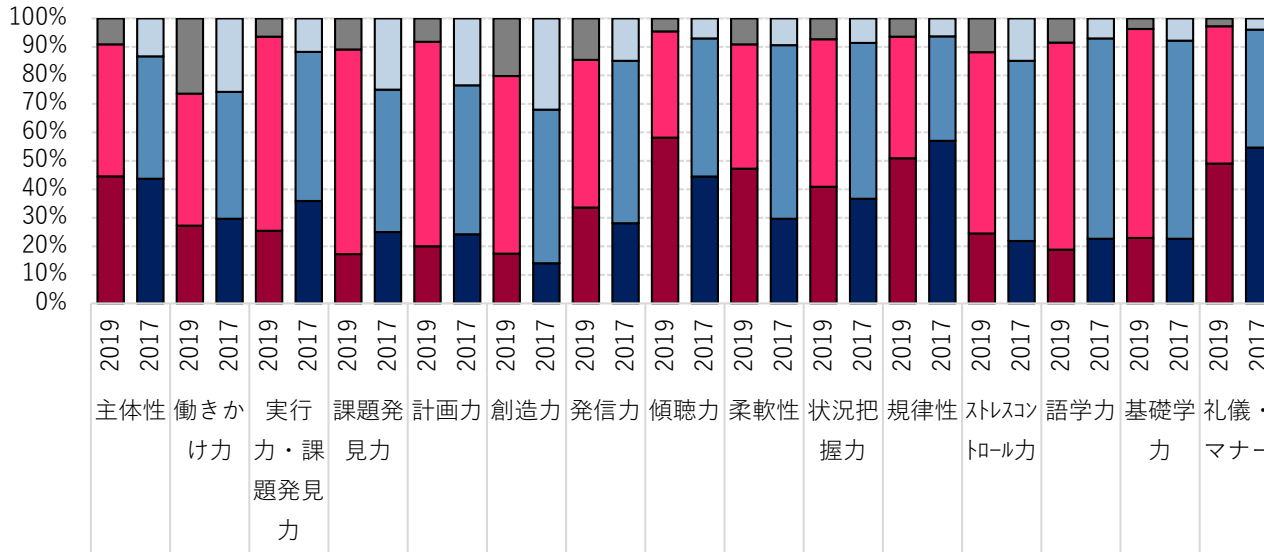




# キャリアとの接続：就業先への卒業生調査

社会人基礎力（2019／2017比較）

2019 ■ よくできてる ■ 期待通り ■ 物足りない  
 2017 ■ よくできてる ■ 期待通り ■ 物足りない

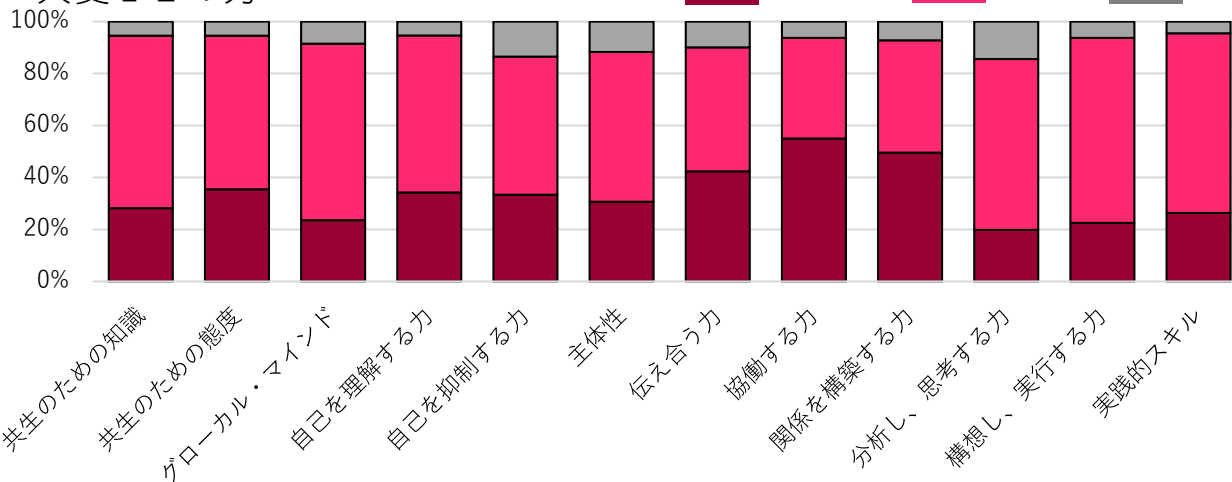


就業中または就職した実績のある本学卒業生に関して、社会人基礎力を評価軸とした質問を行った。この調査は2017年度にも行ったため比較している。

実施時期：2020年2月～3月  
 対象：共愛学園前橋国際大学の就職先等 239社  
 回答企業：144社  
 調査方法：郵送調査（一部2月に本学で開催したセミナー内での集合調査を実施）

共愛12の力

2019 ■ よくできてる ■ 期待通り ■ 物足りない



本学卒業生が就業中または就職した実績のある企業に対して、共愛12の力を評価軸とした質問を行った。この調査は2019年度に初めて行った。

# 卒業生調査

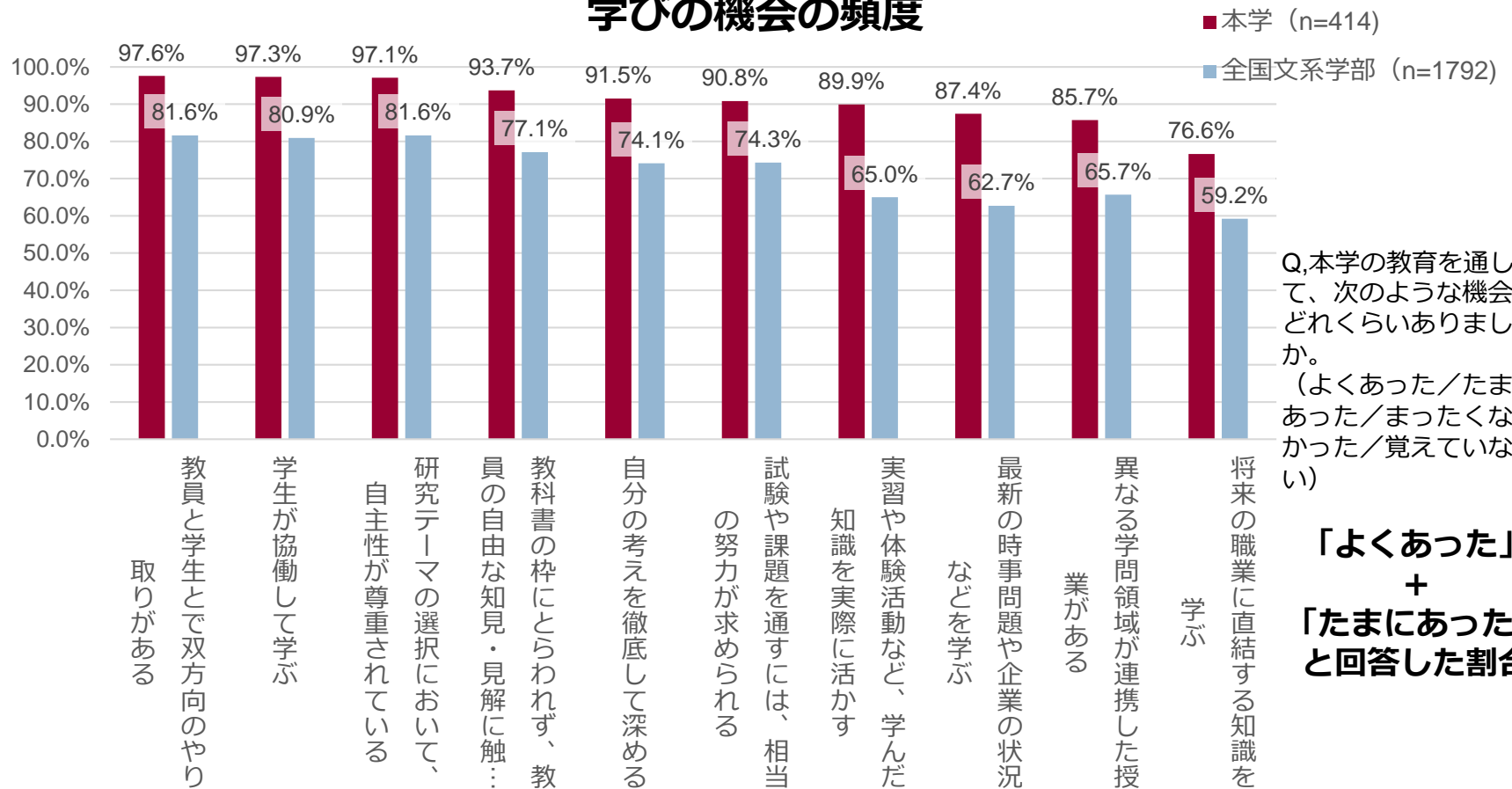
【調査対象者】 卒後1～6年目の卒業生 = 2016年3月～2021年3月卒業者

【調査期間】 2021年12月13日（月）～2022年1月11日（火）依頼状を自宅に送付し、WEBアンケートフォームにて実施・回収

【発送・回収数】 発送数：1,315名 有効回収数：414名（回収率31.5%）

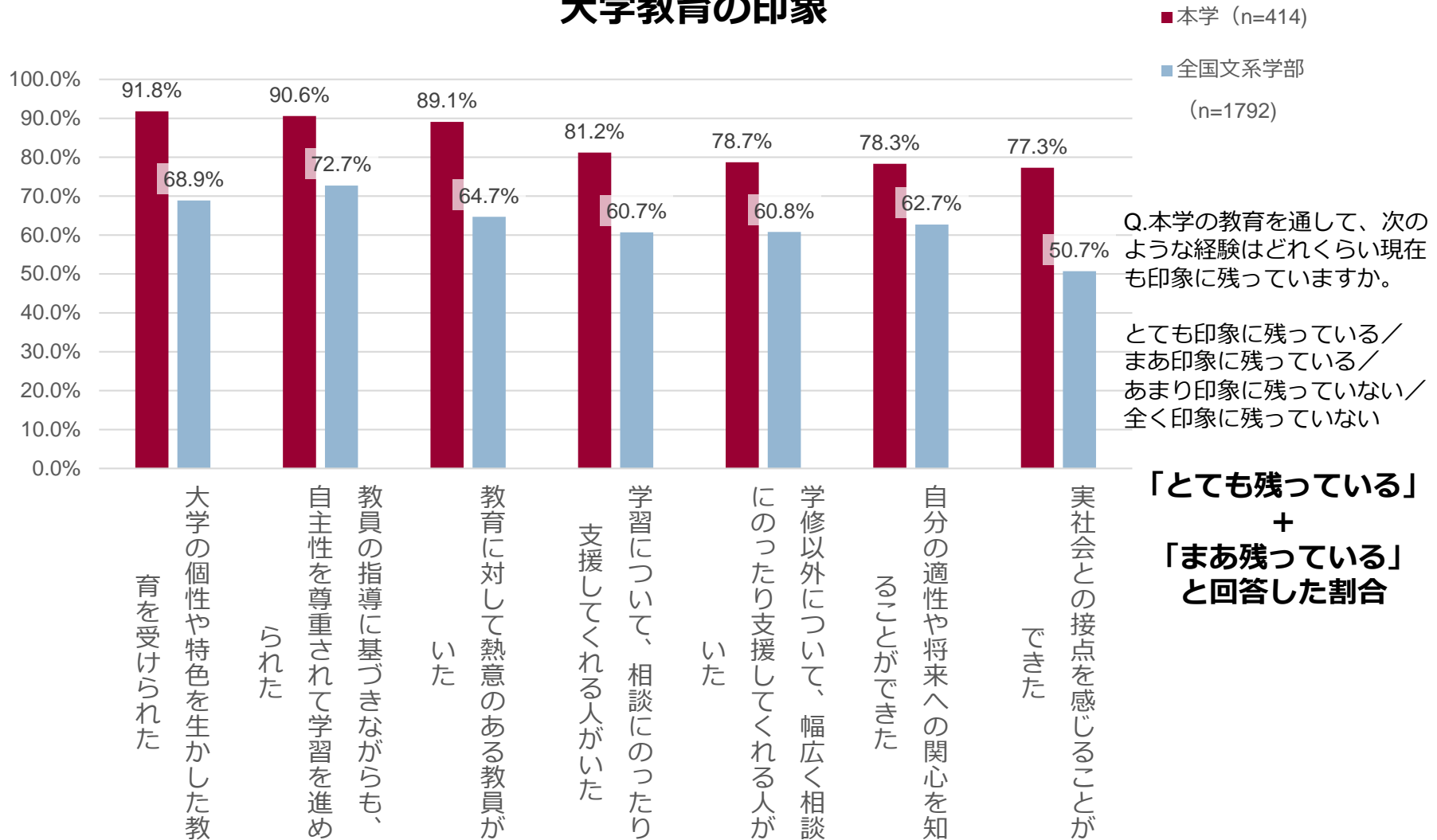
※外部機関に委託し、全国データとの比較も依頼

## 学びの機会の頻度



# 卒業生調査

## 大学教育の印象



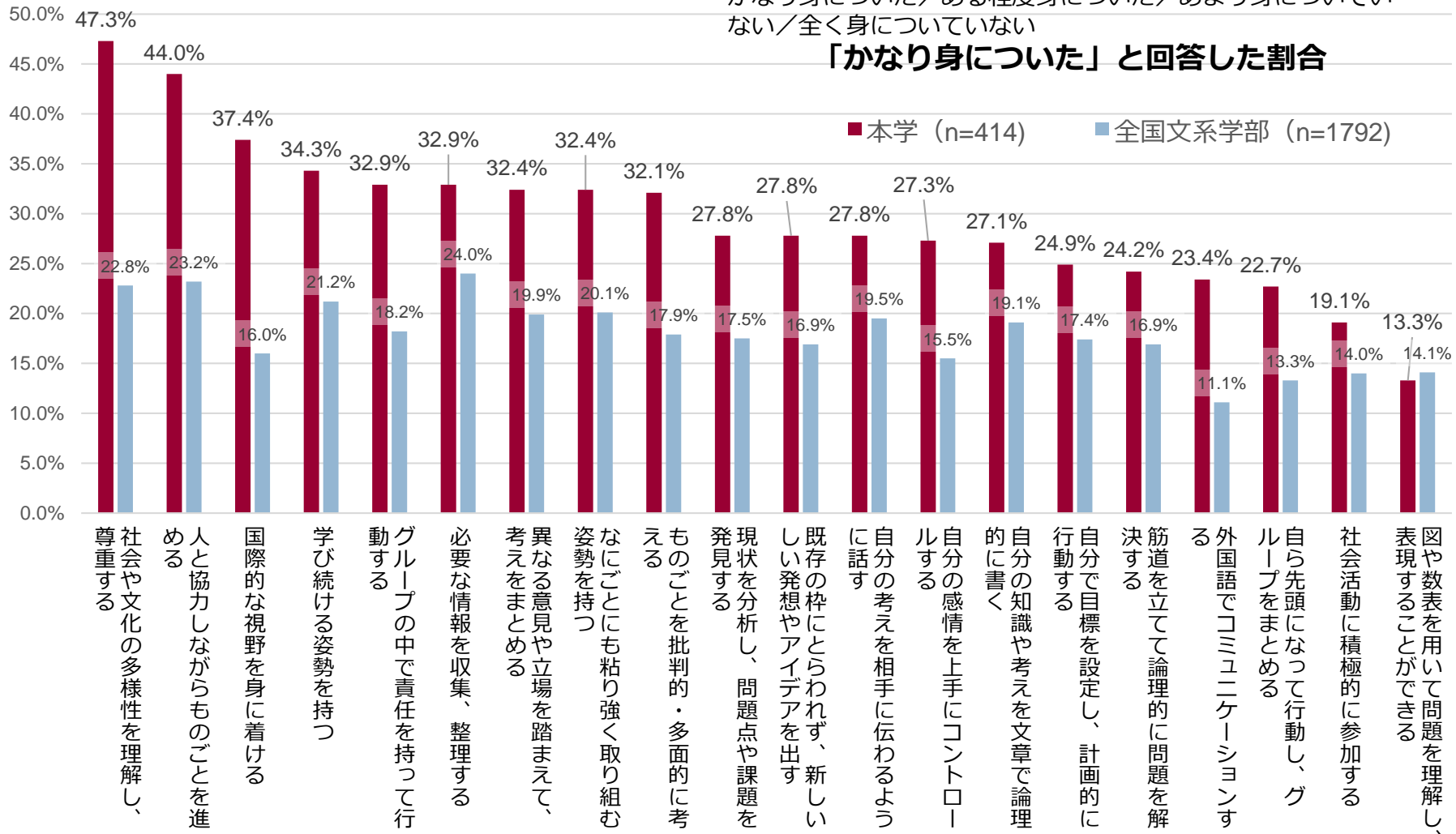
# 卒業生調査

## 各能力の習得度

Q.大学生生活全体を通じて、次のような力がどの程度身についたと思いますか。

かなり身についた／ある程度身についた／あまり身につけていない／全く身につけていない

### 「かなり身についた」と回答した割合





**これから解決しなければいけない  
たくさんの課題**

# たくさんの課題

## 学修成果「共愛12の力」の多元的可視化に向けた構造化

- 多元的可視化に際して学修成果と教育成果を混同しないこと
- 多元化してもなお、それを含めて学生が自ら説明できること

## リフレクション（ショーケース）・リフレクション面談の効果検証をこれからはなければならない

- 現在90%台の面談率を100%にするためにも
- 本当に先生たちが頑張ってくれているけど、結構大変！3学年のゼミ生とすべて面談をするので、30~40人になる。だからと言って、知らないだれかに面談されても…と先生方は言ってくれる。
- 持続可能な体制を模索中。例えば、行事として授業を入れない面談DAYをつくったり。

## 卒業時の「共愛12の力」の把握・検証・卒業要件化？

- 現在は教員から記入を促すことにとどまる
- 12の力のレベルを卒業要件とするかどうかの議論も必要
- 卒業要件とする場合、100%の学生が自己評価をしなければならない

## 授業と「共愛12の力」と評価と・・・

- マップで提示する当該授業で身に着く力を個々の授業でどうアセスメントするのか
- 一つの授業でその力を身に着けるわけではなく、課外活動も含めた4年間の総体として身につくものでもあるので・・・
- 次年度以降にいわゆるマイルストーン科目を設定することの検討を開始することでソリューションが見えないか

共愛学園前橋国際大学が検討している  
教育成果の把握・可視化のための複合的なエビデンス

大学全体 (institutional level)

- DIPCPAPの有効性：「共愛12の力」9年次から卒業時の成長、KG3+8修得率、入試別伸び
- 教育の有効性・社会への適応：卒業生調査、就職先アンケート、在校生・卒業生調査、就職率・進学率、卒業率
- 学修成果（12の力・DP達成度）：リフレクション記入率、リフレクション面談実施率

学位プログラム (program level)

- 教育方法の適切性：ALP&L導入と授業外学修時間、授業方法別12の力の付与、オンデマンド授業の検証
- 教育課程構成の適切性：進学率、GPA、単位の卒業化（授業外学修時間）
- 国際理解・留学経験支援：留学・COIL経験者数、留学率
- 地域理解・社会連携・社会貢献：地域・企業連携（寄付講座）、高大連携
- 学習支援：学習意欲の有効性、進路指導、留学生支援、DE&Iの促進、ピアサポート利用（ラビタデスク、ITサポート、英語）、進学率

授業科目 (class level)

- 授業の適切性：クラス規模、シラバスと授業内容の整合性、授業アンケート、授業外学修時間
- LMSによる授業支援：LMS利用率（LMSの効果検証）

Creating the Future of Our Community 共愛学園前橋国際大学 Supporting the Well-being of Our Community 共愛学園前橋国際大学短期大学部

2023年度から始まる新カリキュラムにおける  
学修成果の可視化と教育成果の把握に係る検討を開始

4年	卒業論文	
3年	課題研究	コア専門
2年	GLCA, seminar	コア専門
1年	必修コア必修科目	基礎科目

学修成果の可視化

教育成果の把握

学修成果の可視化と教育成果の把握に係る検討を開始

Creating the Future of Our Community 共愛学園前橋国際大学 Supporting the Well-being of Our Community 共愛学園前橋国際大学短期大学部

- ・・・学修成果・教育成果の把握・可視化については、
  - ・全ての学修成果・教育成果を網羅的に把握することはできない
  - ・把握した学修成果・教育成果の全てが必ずしも可視化できるわけでもないという限界が存在する・・・（教学マネジメント指針 P22～23）

・・・学修者本位の教育の実現に向けた教学マネジメントの確立も、各大学において短期的に完全な形で実現されることは想定できず、関係者により安定的・継続的に取り組まれることにより実現されるものであることは改めて強調しておきたい。（教学マネジメント指針 P45）

教学マネジメントの確立に向けた取組の過程では、成果のみならず課題が明らかとなることも容易に想定される。課題が明らかになったとしても、各大学が真摯に教学マネジメントの確立に取り組み続けること自体を肯定的に捉え、長期的な視点でその取組を評価することが、各大学における教学マネジメントの確立を安定的・継続的に図る上で大きな後押しとなる。（教学マネジメント指針 P45）

ご清聴ありがとうございました







## **(参考)共愛学園前橋国際大学紹介等**

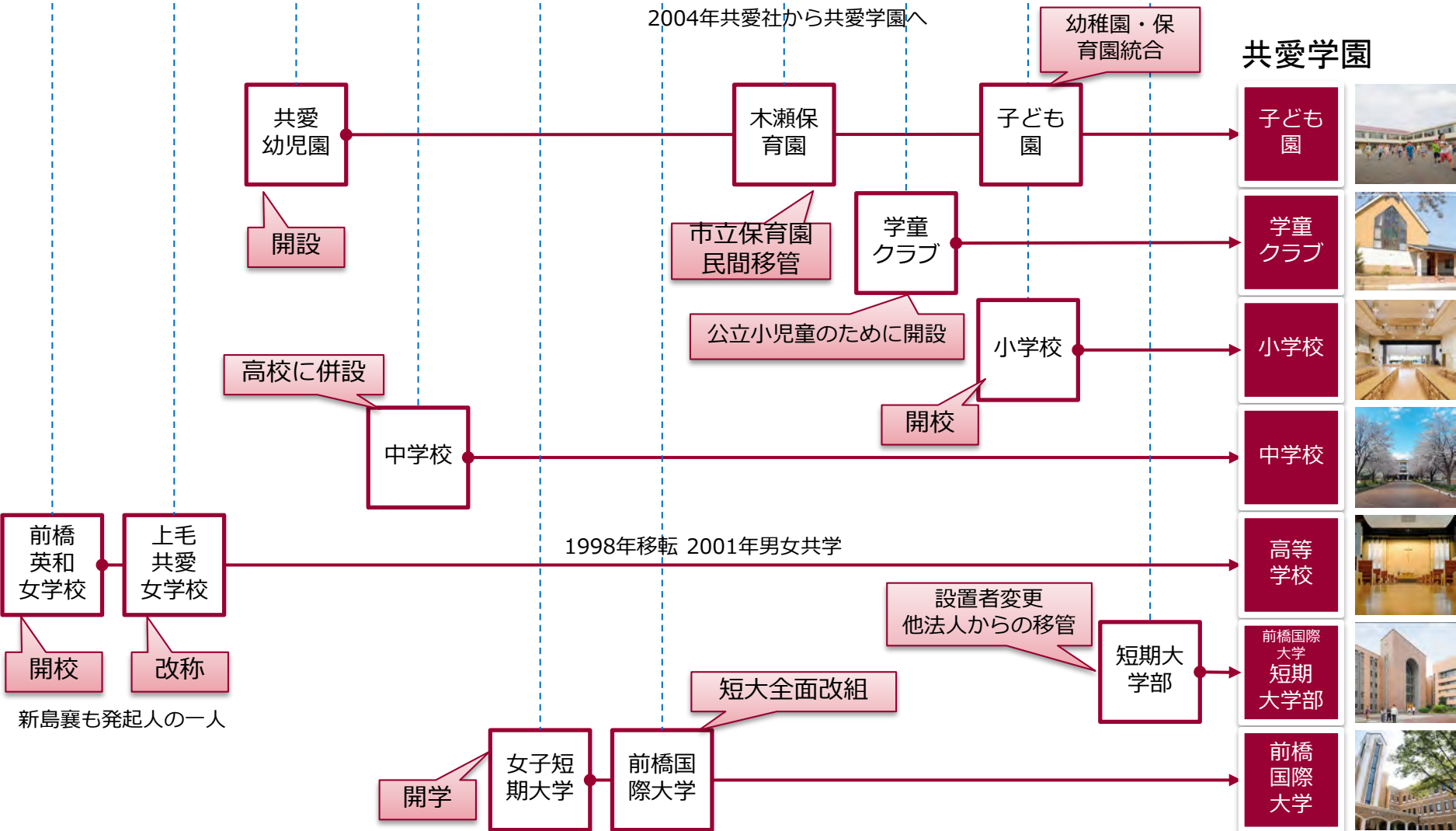
# 共愛学園の歩み

明治21年

100周年事業 110周年事業

130周年事業

- 1888
- 1889
- 1939
- 1947
- 1988
- 1999
- 2009
- 2011
- 2016
- 2021



## 共愛学園



# 共愛学園前橋国際大学の概要

## 共愛学園前橋国際大学

### 国際社会学部 国際社会学科

国際社会  
専攻

**英語コミュニケーションコース**  
English Communication Course

**国際コース**  
International Course

**情報・経営コース**  
Information Technology, Business Management Course

**心理・人間文化コース**  
Psychology, Humanity and Culture Course

地域児童  
教育専攻

**児童教育コース**  
Elementary Education Course

名称 英語名	共愛学園前橋国際大学 KYOAI GAKUEN UNIVERSITY
理念	共愛 = 共生の精神
目的	国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成
モットー	学生中心主義 地域との共生 ちょっと大変だけど実力がつく大学です
定員	入学定員299名（2021年度255名→299名へ定員増） 収容定員1112名

キャッチコピーは「地域の未来は私がつくる。」



共愛学園前橋国際大学のPromotion Movie



# 共愛学園前橋国際大学の特長

## 先進的な教職一体ガバナンス

### スタッフ会議

- ・理事長、学長、全教職員が参加
- ・大学の方向性を左右する最重要課題を審議

### 各種大学運営センター

- ・教員も職員も全員が一スタッフとして所属し、主体的に大学を運営
- ・属性に関わらず長を互選



迅速な意思決定

### 学長の強力なリーダーシップ

### 理事会の強力なバックアップ

## 学生中心主義 学生は大学づくりのパートナー

### 大学運営への学生参画

- ITサポート
- 英語アカデミックチューター
- TA(ティーチングアシスタント)
- 図書館ピアチューター
- 留学生チューター
- 障がい学生支援チューター
- 学生広報スタッフ/オープンキャンパス運営
- 学生カフェ運営
- インターンシップ奨学金/ワークスタディ奨学金
- 部室棟建設プロジェクト(2014): 学生に予算を預け、全て学生が担当。

### 学生の意見を反映させる取組

- スピークアップ相談システム
- 学生アンケート
- 授業アンケート
- 4号館建築プロジェクト(2011)
- 国際交流寮建築プロジェクト(2015)

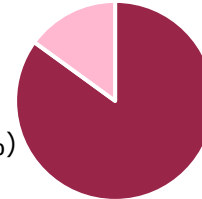
### 学生による取組

- 学内フリーペーパー
- エコ・キーパー
- ネット情報発信
- キャリア学習
- 新入生歓迎・留学生歓迎行事
- 各種多様な学内イベント

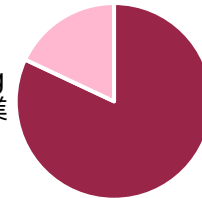
※一部は学生プロジェクト奨学金で支援

## コンパクトユニバーシティ 教育の質転換

クラス規模  
50名以下85%  
(10名以下30%)



Active Learning  
要素を含む授業  
82%



専任教員の  
Active Learning  
活用率  
100%



## 地学一体

### 地域貢献

### 地域共生・連携

### 地学一体

入学者県内割合

約90%

県内就職割合

70~80%

貢献から連携へ/連携から一体へと歩みを進め地域(行政・学校・企業・NPO)との協働学修多数

DX

2010~ ユビキタスキャンパス

Full Paper Less Campus  
文科省PLUS DX 選定

- ・ AIによる個別最適学修構築
- ・ デジタルコンテンツの活用
- ・ LMSの完全活用
- ・ RPA等運営のDX



大学・短大進学者の就職先 イメージ図



# 次世代の地域社会をけん引するグローバルリーダー

## = 飛び立たないグローバル人材の育成

KYOAI GLOBAL PROJECT



経済社会の発展をけん引するグローバル人材育成支援 (GGJ)

＜次世代の地域社会をけん引するグローバルリーダーの育成＞



文部科学省

地(知)の拠点

地(知)の拠点整備事業 (COC)

＜地学一体化加速プロジェクト：持続的地(知)の拠点創生へ＞

学修プログラム

学生

次世代の地域社会をけん引するグローバルリーダーへ成長

学修成果可視化

学修質保証

定着・活躍

大学教育再生加速プロジェクト (AP)

＜学修質保証システムの構築＞



文部科学省

地(知)の拠点

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)

＜持続的<sup>①</sup>地方創生共同体形成プログラム：若者定着<sup>②</sup>地域総ぐるみ計画＞

2012～2019  
GGJ・COC・AP・COC+  
4大事業の拠点に選定

その他

- PLUS-DX
- 私大等改革総合支援
- 私大等教育研究活性化設備整備
- 学生支援GP等

# 共愛学園前橋国際大学の評価と現状

## 4位

学長が教育面で注目する大学  
(過去5年連続4~5位)

- 1位 金沢工業大
- 2位 国際教養大
- 3位 国際基督教大
- 4位 共愛学園前橋国際大**
- 5位 東京工業大
- 6位 東北大
- 7位 金沢大
- 8位 芝浦工大・早稲田大
- 10位 東京大

## 11位

学長が総合的に注目する大学

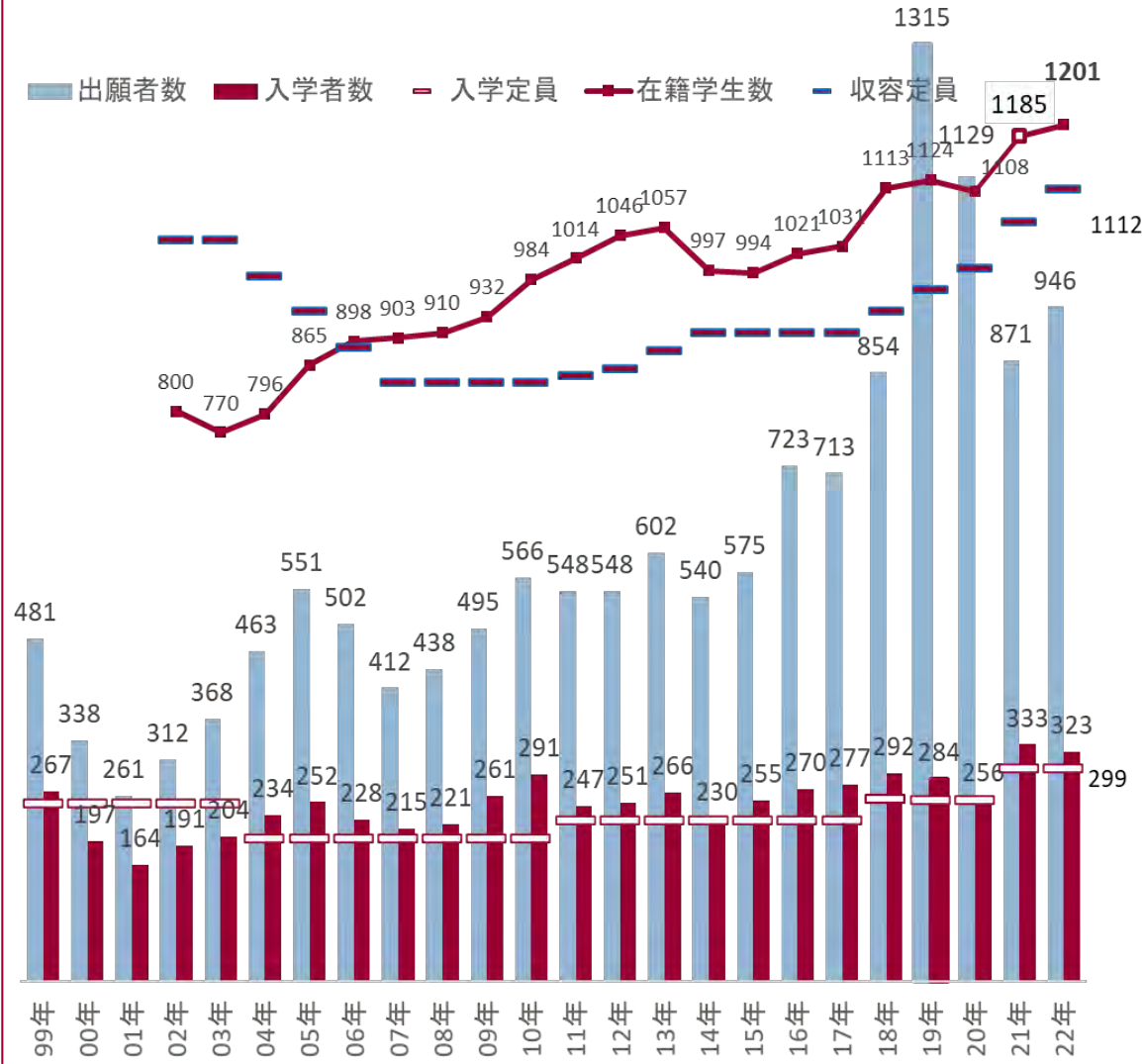
- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1位 京都大       | 8位 国際基督教大            |
| 2位 東北大       | 9位 早稲田大              |
| 3位 東京大       | 10位 名古屋大             |
| 4位 金沢工業大     | <b>11位 共愛学園前橋国際大</b> |
| 5位 東京工業大     |                      |
| 6位 大阪大・国際教養大 |                      |

## 1位

学長が注目する学長

『大学ランキング2023』(朝日新聞出版)

## 在籍学生数・出願者数・入学者数推移





# 共愛学園前橋国際大学に関する書籍や事例集等



地域に愛される大学のすすめ

出版社：三省堂 (2011/7/26)



今選ぶなら、地方小規模私立大学！

～偏差値による進路選択からの脱却～

出版社：レゾンクリエイト  
(2018/10/19)



新たな大学像を求めて

共愛学園前橋国際大学はなぜ注目されるのか

出版社：IN通信社 (2019/11/14)



「大学等における「教職協働」の先進的事例に係る調査」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/itaku/1403495.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1403495.htm)



地域で学び、地域を支える。 大学による地方創生の取組事例集

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_d/chihoujirei.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/chihoujirei.html)



「教学マネジメントの確立に資する事例の把握等に関する調査研究」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/itaku/1418380\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418380_00003.htm)

その他、雑誌記事等多数